

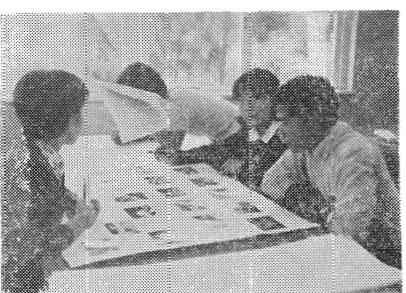
た。決意であった。学生は三〇人程で大半は教会で日曜学校等を手伝っていた。教養科目の外にキリスト教科が毎日百分授業で二科目はあるので後期が始まつた時には二〇人程になり学生より教師が多いと云う今では想像もつかない様な授業風景であった。それにしても宗教哲学には全くまつた。少しでも理解しようと図書室でおそくまで読書したものであつた。

キリ短の学生像を求めて

詩高平生賦語

見るには何とも不克かしく、全知全能の主なる神の栄光を迎ぎ見る思いであった。

（主婦）
「お出となつた。
夜のしらじら明けそめるのを一
晩中の読書でさえてしまつた目で
見るのは何ともすがしき、全
知全能の主なる神の栄光を迎ぎ見
る思いであつた。



モットーにした、ほんとに家庭的雰囲気のする短大で、教師と学生が肌と肌の触れ合う、まさに人間を大切にする、そう云う短大でありました。

当時は仲里朝章先生、前田伊都子先生、ウイリアムズ先生、ハンブリック先生、山里勝一先生、新垣武夫先生、その他多くの先生方が活躍して居られましたが、平良修先生がアメリカ留学より帰られ、学長に就任なさった事は、私達学生にとって大きな喜びでありました。

学生のクラブ活動と云えは、伝道、英語、児童文化、ワンドーフォゲル、新聞部等がありました。学院祭を始めて開いたのも、私の学生時代であります。何人かの有志に学院祭の主旨を理解してもらい、活動を開始しました。いくらかでも学院祭の費用に充てる寄

学生時代というものはちょうど他人が泳いでいるのを見て、ああでもないこうでもないというのと似ている所がある。それが悪いといふのではなく、むしろそれを大いに利用して客観的に物事をとらえる訓練をする事が大切に思える。個々の技術に終始するのではなく常にマクロ的な見方と同時にミクロ的配慮をあわせもつという事。子供と関わる時それがものすごく大切になってくる。

私は短大時代はいつも欲求不満の固まりであった。《保育ク》といふものが常に目の前にちらついていてもどこからどう分け入つたらいいのか眉目検討がつかず手さぐりの毎日であった。学校に来てもしかたがないと思い、友だちに仕事に誘われ退学を考えたり、自分が焦燥感のとりこになり、ひとりずもうをとつたり……卒業というものが本当に光明に思えた

生の一時期としてとらえなければ
という思いがあつた。保育所の社
会的位置づけ（もちろん慈善事業
といふものではなく）今日の社会
状況の中でどういう役割を果たし
ているのかプラス、マイナス両面
からの検討、また子供の行動の背
後にいるものは何か、それは生涯
の中でもどういう意味をもつのかと
いう保育視点、そして婦人労働者
である保母の問題etc——そう
いった事を生き生きと討論しあ
い、フィールド・ワークしていく
たい。短大では最短距離でそれが
できるのではないかといった甘い
考えがあった。しかし入学後二、
三ヶ月でそれは崩れ去つた。それ
でもうやすやすとあきらめる事
もできずともかく動いた。やつと
こ保育問題研究会なるものを形と
してつくりえたのは卒業間近であ
つた。今現場に来て痛切に思うの
は、学生時代に考えた事を一つ一
つどう実現していくかという事で
ある。

集会のこと

——キリ短が他の大学に比べてい
いところは、木曜集会とか全学集
会とかがあることだと思います。
私はこれで成長したと言つてもい
いくらいです、集会は科目の一つ
だと考えています。なにしろ本を
読むのが嫌いで、人の話を聞いて
勉強するのが好きなんです。
それにしても集りが悪いね
え。

——一年の時はよく出たんだけど
ど、この頃はほとんど出ていな
い。

——私もそうです。一年の時はま
じめでした。

——木曜日の午前にクラスがない
ので、つい集会のことを忘れてし
まう。それにわざわざ集会のため
に朝から学校に出てくるのも…。
——「ピックが面白くない」という
のが大方の意見のようです。

——恋愛論のときは割と集りがよ
かつたけど。

——私、恋愛論はあんなところで
やるべき話題じゃないと思いま
す。

——靖国問題のときは学生はひど
く少なかつた。

——全学集会を企画する側から言
えば、あえて全学生を対象にしな
い、ということです。談話室でダ
ベッている人や、勉強している人
や、ピアノの練習をしている人に
呼びかけてまで、集まりをよくす
る必要はない。本当に関心のある
人に来てもらいたい。

私もそう思います。本人に聞かなければしようがないんじやないか。

木曜集会の方は全然面白くない。いろいろな考え方の人が出席しているのに、話がいつも一方的に、ディスカッションの時間も少ない。それにトピックが専門的すぎる感じです。

今の意見は本質的な点をついていると思う。集会はたしかにプラットフォームになる。しかし、スピーカーにもっと多彩な人を呼んでほしい。いつもステレオ・タイプで、考え方方も話を聞くいううちからわかる感じです。

私はもとクリスチヤンとでも言いましょうか、高校の頃教会に通っていたのです。それがこちらの学校とは違う宗派なものですから、あえて礼拝には出なかつた。私は出ています。宗教とか礼拝とかいうものについて、これまであまりに拒絶反応が強すぎた。今はできるだけ素直に、それに近づきたいという気持です。

私もほとんど出ています。あの雰囲気が好きなのです。讃美歌を歌つたり……。話そのものは、きまりきった話ですから興味はありません。

私なんか、礼拝に出るより、その時間に英語の予習でもしようという気になります。



A black and white circular portrait of a young woman with dark hair, smiling. She is wearing a dark, collared shirt. The photo is mounted on a larger page with text.

A black and white circular portrait of Miyuki Miyagi, a woman with dark hair and bangs, looking slightly to her left.

我喜屋 千